

検証作業の進め方について（案）

* 当面の検証作業の進め方を協議し決定するが、検証作業を進める中で、必要に応じて、見直しを行うこととする。

1. 検証テーマ，作業順序について

【第2回審議会の議論】

- 検証テーマは、「普通教育・専門教育の体制整備」「男女共学化」「全県一学区化」とする。
- 検証テーマのうち、何にプライオリティを置き、どういった順番・期間で検証を実施し、アウトプットとしてどのようなものを出すのかなどは、検証部会の議論に譲る。
- 検証作業としては、まずは「普通教育・専門教育の体制整備」を中心に着手することとし、「男女共学化」「全県一学区化」については、論点整理はしておくこととし、後は時間をかけて経過を見ていくのが良いのではないか。
- 県民が一番注目しているのは「男女共学化」「全県一学区化」だが、そのアウトカムが見えてくる時期がはっきりしない。
- 「男女共学化」「全県一学区化」は、時間をかけて検証すべきテーマである。ただし、改革は既に実施されているので、現時点でどのような課題が起こっているのかは見えていかなければならない。その後の経過はじっくりと見ていくべき。
- 「全県一学区化」は、入学者選抜審議会においてフォローアップしているので、その経過を見ながら検証に着手するのが良いのではないか。

(1) 検証テーマ

「普通教育・専門教育の体制整備」，「男女共学化」，「全県一学区化」

(2) 検証作業の順序

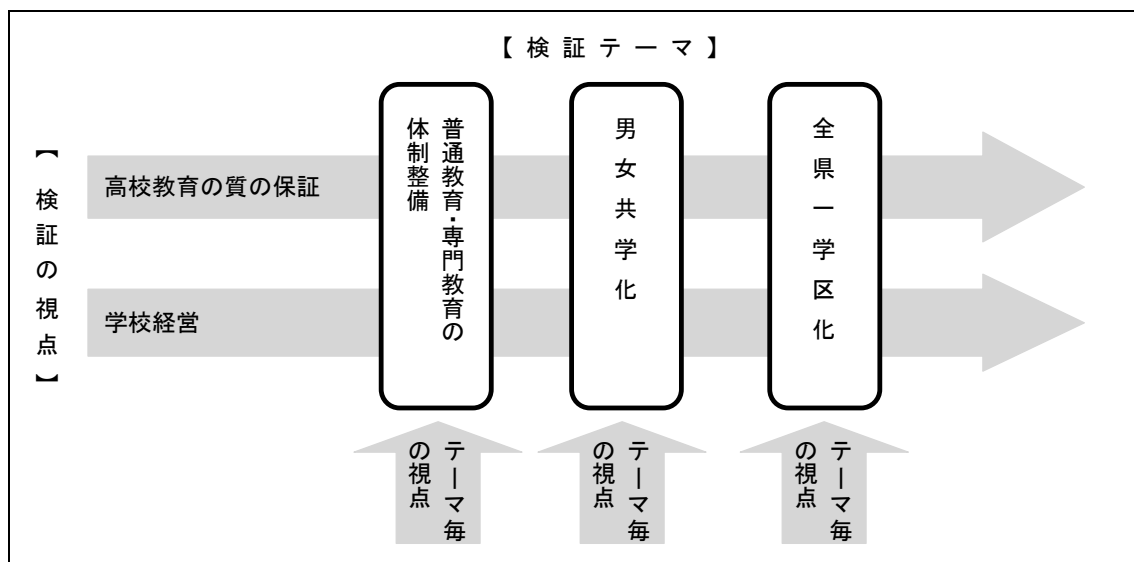
- ① 今年度は、「普通教育・専門教育の体制整備」を中心に検証作業を進める。
- ② 「男女共学化」については、中長期的な視点も必要となることから、今年度については、必要なデータの収集・整理を行う。
- ③ 「全県一学区化」については、現在、高等学校入学者選抜審議会においてフォローアップしていることから、その経過を見ながら検証作業に着手する。

(3) その他 ～「高校教育の質の保証」「学校経営」の検証について～

【第2回審議会の議論】

- 「高校教育の質の保証」「学校経営」は検証テーマとしては取り上げないものの、「普通教育・専門教育の体制整備」「男女共学化」「全県一学区化」と重層的にリンクする課題であることから、検証テーマに絡めながら検証していくべき。その具体的方法は部会の議論に譲る。
- 「普通教育・専門教育の体制整備」と「高校教育の質の保証」「学校経営」は、オーバーラップしている部分、目的と手段が相互に込み入っている部分が多く、分けて検証することはできない。

- ① 「高校教育の質の保証」「学校経営」は検証テーマとしては取り上げないものの、検証テーマと深く関わることから、その成果・課題を把握する必要がある。
- ② そこで、「普通教育・専門教育の体制整備」「男女共学化」「全県一学区化」の検証に当たっては、「高校教育の質は保証されているか」「学校経営が適切になされているか」という視点から行うこととする。
- ③ その他、検証テーマごとに、どのような視点により検証するのかを検討する。検証の視点に関する検討は、第2回目までの検証部会で行うが、必要に応じ、随時見直しを行う。



2. 検証の方法, スケジュールについて

【第1回・第2回審議会の議論】

(施策目的・アウトカムの整理)

- すぐにデータをみるのではなく、はじめに、それぞれの施策の目的・目標をじっくり見ていくことが必要。
- アウトカムの設定に当たっては、時間をかけて徹底的に議論すべき。

(検証手法)

- アウトプットの施策体系を示した現行の県立高校将来構想と、アウトカムの施策体系を示した新構想を、つなぎ合わせて評価するためには、実施計画を含めて、上手につなぎ合わせていく必要があり、新たな評価手法の確立が必要。
- 現構想と新構想はハードウェアとソフトウェアの関係にあり、これをどう調整するのが重要。
- プロセスマネジメント（インプット・アウトプット・アウトカムの構造化）の観点が有効と思う。
- 「男女共学化」の検証には方法論がない。どういう方法論でアプローチしていくかについては、パイロットスタディ的に、探索的に進めていくことになるか。

(検証作業の評価)

- 施策の検証は必要だが、もう1つプラスして、この審議会としての説明責任を果たしているのか継続して検証すべき。

検証の方法・手法についてはテーマごとに検討していく必要があるものの、まずは、次により、検証作業を進める。

【検証の方法, スケジュール】

実施項目	実施内容	実施時期
(1) 施策目的・アウトカムの整理	高校教育改革の施策毎に、「目的」と「期待した成果（アウトカム）」を整理する。	第1回部会 (H22. 11)
(2) 現状の把握	①アウトカムの達成状況を把握するために、必要なデータを特定する。 ②必要なデータが不足している場合は、調査内容・手法を設計して、調査を実施する。 ③収集・整理したデータを分析して、アウトカムの達成状況を明らかにする。	第2回部会 (H23. 1) ～ 第3回部会 (H23. 2)
(3) 高校教育改革の成果・課題の抽出	①アウトカムの達成／不達成の要因を明らかにする。 ②要因の特定に当たっては、仮説を設定し、設定した仮説が正しいかどうかを、データを分析して確認する（仮説検証）。 ③仮説検証に必要なデータが不足している場合は、追加調査を実施する。	第2回部会 (H23. 1) ～ 第3回部会 (H23. 2)
(4) 改善方針の検討	(3)を踏まえ、改善方針（誰が・何を・いつまでに・どのように・どうするか）を検討する。	第4回部会 (H23. 3)
検証作業の評価	検証作業の評価（検証作業についての説明責任の確保）の方法について検討する。	

*上記のほか、高校等を訪問し、実地調査を行うことを予定している。

*平成22年度は、「普通教育・専門教育の体制整備」を中心に検証作業を進めるが、その他のテーマについても必要なデータの収集・整理をしておくこととする。

3. 検証データの収集・整理について 【議事（4）】

【第1回・第2回の審議会の議論】

- 新将来構想は実質的にはガイドラインであり、検証に当たっては、実施計画中の個別事業も含めて検証が必要。
- 現状把握に当たっては、統計資料の分析と実地調査だけでなく、ヒアリングやアンケートなど、検証作業の過程で調査手法を確立していくべき。
- ヒアリング対象：高校の校長・教員・同窓生，高校の前工程の小中学校・後工程の大学や企業，地域

(1) 検証に必要なデータの特定

- ① 検証テーマに関わる施策の目的・アウトカムの達成状況を把握するために、どのようなデータを用いて評価すればよいかを検討する。
- ② 必要なデータの特定は、第2回目の部会までに行うが、以後も必要に応じ、追加して整理・分析を行う。

(2) 既存データの整理

名 称		調査・評価制度の目的	本検証で使用しようとする理由	データの 内容
① 学校別データ (*)	調査資料等	学校基本調査 学力状況調査 統計調査のほか、教育庁等が業務上収集しているデータ	(指定統計調査) ○学習指導の改善 —	別紙1
	学校評価	○学校経営 ○組織変革 ○地域協働	○教育課程別，学級規模別，地域別等の高校の特徴や年次別推移について把握する。	
	②行政評価	○顧客主義 ○成果主義 ○市場主義 ○アカウントビリティ		○高校教育改革に関する主要な事務事業の成果・進捗状況を把握する。 ○高校教育改革の成果・課題を把握するに当たって，行政評価ではカバーできない範囲を明らかにする。
	③全県ベースのデータ	—	○本県の教育施策に関する背景情報を把握する。	別紙4

(*) 学校別データの調査対象校・年度

- ア) 対象校：県内のすべての高校（81校）のデータ
- イ) 調査年度：平成12年度（現将来構想の策定年度）
平成17年度（現将来構想の計画期間の中間年度）
平成21年度（新将来構想の策定年度）
平成22年度以降毎年度
- *その他，検証テーマに応じて，調査年度を追加する。
- ウ) 学校別のデータ以外は，直近調査年のデータを収集する。

(3) 追加調査の実施

検証作業を進める中で，既存データでは適切に評価できない場合は，別途，調査を設計・実施して，必要なデータを収集する。

(別紙1) 統計調査等

1. 学校基本調査

(1) 生徒数(男女構成比)〔前年度比〕
(2) 入学状況(定員, 男女別の志願者数・倍率, 男女別の入学者数)〔前年度比〕
(3) 教員数(本務者数, 兼務者数, 本務教員一人当たりの生徒数)〔前年度比〕
(4) 卒業生数〔前年度比〕
(5) 卒業後の進路状況〔前年度比〕 「大学進学者」 「短期大学進学者」 「専修学校進学者」 「就職者」 「一時的な仕事に就いた者」 「進路未決定者」
(6) 県外就職者数〔前年度比〕
(7) 職業別就職者数〔前年度比〕 「専門的・技術的職業従事者」 「事務従事者」 「販売従事者」 「サービス職業従事者」 「保安職業従事者」 「農林作業従事者」 「漁業作業従事者」 「運輸・通信従事者」 「生産工程・労務作業者」 「製造・制作作業者」 「定置機関運転・建設機械運転・電気作業者」 「採掘・建設・労務作業者」
(8) 学級数〔前年度比〕

2. 学力状況調査／ペーパーテスト(2学年)の結果

(1) 国語正答率〔前年度比〕
(2) 数学正答率〔前年度比〕
(3) 英語正答率〔前年度比〕

3. 学力状況調査／意識調査(1・2学年)の結果

(1) 現在最も強く希望している進路(回答割合)
(2) 授業の理解度(回答割合) 「ほとんどの授業がよく理解できる」 「理解できる授業の方が多い」 「理解できる授業と理解できない授業が半々」 「理解できない授業の方が多い」 「ほとんどの授業が理解できない」
(3) 受けたい授業はどんな授業か(回答割合) 「基礎・基本から分かるまで教えてくれる授業」 「発展的な内容まで教えてくれる授業」 「興味や関心が持てる授業」 「進路希望達成につながる授業」 「資格取得につながる授業」
(4) 平日の学習時間(回答割合) 「2時間以上」 「1時間～2時間」 「30分～1時間」 「30分未満」 「全く、またはほとんどしない」
(5) 平日に家庭で最も時間をかけていること(回答割合) 「家庭学習」 「テレビやラジオ」 「ゲームやパソコン」 「電話やメール」 「読書」 「自分の趣味家族との対話」 「手伝い」 「その他」
(6) 学校に行く前に朝食をとるか(回答割合) 「必ずとる」 「たいていとる」 「とらないことが多い」 「全くとらない」

4. その他のデータ

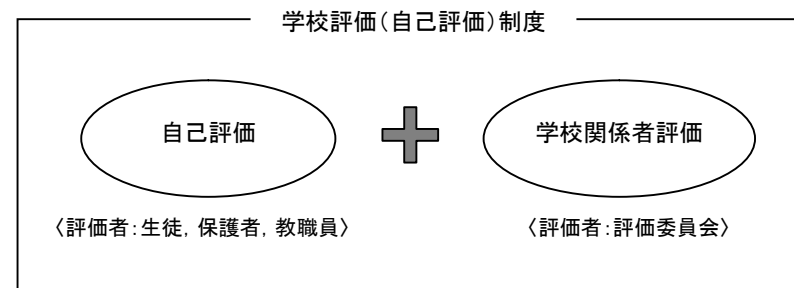
(1) 在学者の状況（長期欠席者数，原級留置数，中途退学者数 等）
(2) 入学試験の状況
(3) 卒業必要単位数
(4) 教諭の年代構成
(5) 教科別の教諭・講師数
(6) 学校設定科目の設置目的，設置科目，単位数
(7) 習熟度クラスの設置科目，単位数
(8) 学び直しカリキュラムの設置科目，単位数
(9) 学校の経営方針
(10) 生徒の通学状況（通学距離別，通学時間別，通学手段別）
(11) 学校の経営方針
(12) その他必要なデータ

(別紙2) 学校評価(生徒・保護者による自己評価)(H21年度/実施高校分)

データ(資料出所)		A高校	B高校	C高校	D高校	E高校
各校共通質問項目	①学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている(学習指導)					
	②挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている(生徒指導)					
	③進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている(進路指導)					
	④教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている(教育相談)					
	⑤部活動は活発に行われている(部活動)					
	⑥生徒会活動は活発に行われている(生徒会活動)					
	⑦有意義な学校行事がある(学校行事)					
	⑧地域や伝統に根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる(特色ある学校づくり)					
	⑨災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている(防災教育)					
	⑩学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている(開かれた学校づくり)					
	⑪校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている(施設整備)					
	⑫学校生活は充実している(総合満足度)					

*そのほか、教職員が自校の教育内容等に関する自己評価を行っている。

各校共通の質問項目は設定していないものの、検証に活用できる可能性がある。



(別紙4) 全県ベースのデータ

1. 学校基本調査

(別紙1) の調査項目

2. 新県立高校将来構想の策定のバックデータ

(1) 本県高校数の推移
(2) 現県立高校将来構想の推進状況
(3) 地区別の学級見通し
(4) 高校教育に関する県民意識調査結果 (H21年12月)
(5) 宮城県のフリーター・若年無業者数の推移
(6) 宮城県の進学率の現状
(7) 地区別・学校規模別の学校数の推移
(8) 全国・各県の学科構成
(9) 県内高校募集定員 (平成21年度)
(10) 公立高校の地区別学科構成 (平成21年度)
(11) 公立高校配置図
(12) 学校規模別の開設科目
(13) 学校規模別の開設部活数・学校図書館の蔵書数
(14) 学校規模別・種別の学校運営経費
(15) 地区別の高校の配置状況